

令和元年5月4日の降ひょうに係る当面の技術対策

令和元年5月7日

春日部農林振興センター

なし

- 1 被害果実は原則として摘果する。果実の状態をよく確認し、無傷なものを残すよう2～3回に分けて摘果する。
- 2 新梢に損傷がある場合は、折れた枝などを整理するのみとする。
- 3 病害(輪紋病、心腐れ症)の発生を防止するため、以下の薬剤を追加散布する。ただし、気温が高いときには、薬害の恐れがあるため注意する。

※防除暦の薬剤散布を降ひょう後に実施している場合は不要。

【防除例】※ベルコートフロアブルは輪紋病の登録のみ

ベルコートフロアブル 1500倍 200～700ℓ/10a (収穫14日前まで、5回以内)

デランフロアブル 1000倍 200～700ℓ/10a (収穫60日前まで、4回以内)

トップジンM水和剤 1500倍 200～700ℓ/10a (収穫前日まで、6回以内)

- 4 落葉が激しい場合は、樹幹の日焼け防止のためホワイトンパウダーを塗布する。
- 5 施肥は、被害直後は原則として行わないが、被害が大きい場合は次の資材を葉面散布し、樹勢の回復を図る。

【施用例】

メリット(青) 500倍 150～200ℓ/10a 5～7日おきに3回

ぶどう

- 1 折損した新梢は、折れた部分まで切り戻し、新芽の発生を待つ。
- 2 使用可能な副梢は極力使用し、樹勢の回復に利用する。
- 3 花穂が損傷している場合、損傷部分のみを摘除する。
無核栽培では、できるだけ房尻を使用した房づくりを行い、損傷程度に応じて、副穂や支梗を利用する。
有核栽培では、できるだけ多く房づくりを行い、結実の状況を確認後、最終的な着房数を決定する。
- 4 ベと病や灰色かび病の感染を防止するため、農薬を散布する。ただし、気温が高いときには、薬害の恐れがあるため注意する。

【防除例】

オーソサイド水和剤 800倍 200～700ℓ/10a (収穫30日前まで、2回以内)

- 5 落葉が激しい場合は、樹幹の日焼け防止のためホワイトンパウダーを塗布する。

<農薬使用上の注意事項>

- 1 防除例の薬剤はJ P P-NE T令和元年5月1日現在の登録状況を記載しています。
- 2 農薬は、ラベルの記載内容を確認し、適正に使用してください。
- 3 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。